

5水～7金,13木,18火～21金,25火～28金

グローバル・リーダー・インターン 2017

日本語と英語を用いて共に学び、グローバルな視点で宣教に取り組む次世代リーダーを日本で養成するプログラム「グローバル・リーダー・インターン」。先月に引き続き、今月も数名の外国人と共に、「宣教」や「教会」など、様々な事について学びます。

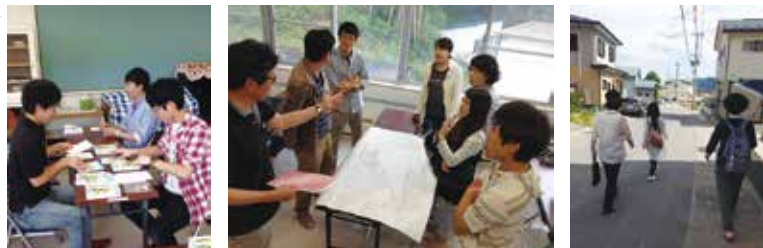


10月～12水

岩手伝道協力会

毎年恒例となっている「岩手伝道協力会」。毎年、学生を中心としたメンバーが、2泊3日で岩手県に出向き、伝道する地域の教会と協力してトラクトを配布します。

写真は、昨年の伝道協力会の様子



学院長のデスクから

夏のさまざまなプログラムやイベントへ向けて、充実した日々をお過ごしのことと思います。

国内、海外（特に香港）からのご支援を受け、ゲストハウスの火災による被害の修復を無事終えることができました。皆さまのお祈り、ご支援に心より感謝申し上げます。

また、現在（7月1日）、Global Leader Intern（グローバル・リーダー・インターン）には、香港からの参加者一人、アメリカから二人が参加、また、後半からはもう一人アメリカからの参加者が合流する予定です。

アジアアクセスの宣教師、また、地域の牧師の方々にご協力いただき、大変充実したプログラムを展開することができております。引き続き、このプログラムのためにお祈りいただけましたら幸いです。よろしくお祈りいたします。

皆さまの主ととともに歩む毎日が、いつも守られ、ますます祝福されたものとなりますように！



学院長 永井信義

編集後記

ハレルヤ!! 早いもので、今年も半分が過ぎて、もう7月です!!6月からは「G.L.I（グローバル・リーダー・インターン）」が始まり、学生にとっては、学びと奉仕と伝道と交わりと、盛沢山の毎日です。そんななか、16日（金）と17日（土）の2日間に渡って、「エリヤハウス・ジャパン」主催の「祈りのミニストリー・トレーニング・スクール コースIA」が、学院を会場として開催されました。今回の編集後記は、そのなかから印象に残ったこと、また気付かされたことを少しだけですが、シェアしたいと思います。

まず、「苦い根」というものについてですが、最初にこの言葉を聞いた時には、過去のキズやそれこそ苦い経験によるトラウマを指すものと思いましたが、実際は、自分の罪や、傷つけた人々に対する自分の罪深い反応が「苦い根」となるらしく、これは私にとって新しい発見でした。

次に、誰かに対し「こうはなりたくない」と思うこと。みなさんも、心当たりあるのではないかと思います。実は、これはその人を裁いていることになるということです。これを「苦い根の裁き」と言い、このことで、自分が気付かないうちに他人を裁いていた事に気付かされ、悔い改めに導かれました。

最後に、この他にも私たちには、「土台となる偽り」や「内なる誓い」など「苦い根」となるものがあり、それが「苦い実」を結ばないように、十字架にかけて殺す（消す）必要があることを学びました。

この学びは、全6回のコースで、残り10月、11月にもあるので、期待して待ちたいと思います。

東海林 真



Kakudai Mission Institute No.347

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ



どの国の人であっても、イエス・キリスト以外に救いはない

イエス・キリスト福音の群
延岡東海教会 牧師

田崎 敏明 師

キリスト様についての、この良い知らせを、私は少しも恥じてはいないからです。この知らせは、それを信じる人をだれでも天国に導く、神様の力ある手段です。この知らせは最初、ユダヤ人だけに伝えられていました。しかし今では、すべての人が、この同じ方法で神様のもとに招かれています。

（ローマ人への手紙 1章 16節〈リビングバイブル〉）

ある日の礼拝会での説教中、私は話の流れで、集っている外国人に「ハゲは英語で何て言うの？ hairless とかか？」と聞きくと、「bald（ボールド）だよ」という返事がありました。すると、ある子が「あっ、田崎先生は bald じゃないよ」と言いました。私は『またまた、気をつけてくれて…優しいなあ』と思ったのですが、その子は続けてこう言ったのです。「田崎先生は bald じゃないよ。balding だよ!!」 おいおい、進行形かよ!! 「こんにちは、ボールドイング田崎です!!」

さて、冗談はさておき、私は英語は全然話せないのですが、そんな私が牧師を務める、それも街の郊外にある教会に、外国人が集って来るのですから、不思議です。来月になると、ワークショップのリードが出来る女の子がアメリカから来る予定です。楽しみです。

うちの教会では説教中も、皆と語り合いながら話を進めていきます。本当に皆がよく聞いてくれますし、ワイワイと楽しく説教出来ます。しかし、説教する時に、日本文化と海外の文化の差によって、外国人に話が通じないこともたまにあります。先週の礼拝会の説教中も、私が、ある日本人の情に訴えるような例話を語ったら、彼らからは、「それはだめでしょう」と言われてしまいました。説教中、ダメ出しを食らう牧師って…私ぐらいでしょうか?!

しかし、もちろん聖書の御言葉に関しては、皆が「アーメン」なのです。私が説教中、聖書の

御言葉を読むと、皆がそれぞれに、その御言葉から教えられたことを話し出します。そして体験した証を語り出します。皆、勝手にですがつ（笑）しかし、その皆の生きた証こそ、励みになります。彼らも、日本人にイエス様のことを話したけど、なかなか信じてくれなかった…と、共に悩みを共有してくれることもあります。

そんな彼らを見ていますと、イエス・キリストに対する信仰というものは、特別な堅苦しいものではなく、ある意味、ごく当たり前のこと、日常のことなのだと感じさせられます。

国の違い、文化の違い、環境の違いなどを超えて、イエス・キリストの福音は、罪人を救います。どの国の国民であっても、イエス・キリスト以外に、救いはないのです。

もしも、日本人がなかなか信じてくれなくても、この福音を語って行く以外にはないのです。「神はみこころによって、宣教のこぼの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められた」（1コリント 1:21）からです。

ところで、ある日の礼拝会では、いつも通訳してくれるジョンが来れなかったため、私は、ただたどしい和製英語で、汗をかきかき説教しました。終わった後、ジャマイカンのオベルに「はなし、わかった?」と聞いたら、彼はこう答えた。「OK! ことばは分からなくても、かみさまはこの国でもおなじだからOK!」って（笑）



CONTENTS

巻頭メッセージ

どの国の人であっても、イエス・キリスト以外に救いはない
田崎 敏明 師

特別講義レポート

グローバル・リーダー・インターン
【ウィーク 1、2】

BOOK あらかると

ゴスペルタウン
トピックス

イエス・キリスト福音の群
教職者会



グローバル・リーダー・インターン 2017

June 13, 2017 ~ August 4, 2017

Report No.1 : GLI Week 1 [6/13-16]

第24期生 黒田 広輝



6.13 チーム・ビルディング



6.14 ストレngthス・ファインダー



6.15 情緒的健康



6.16 祈りのミニストリー



6月13日から「グローバル・リーダー・インターン 2017」が始まりました。今年は、共に学ぶために海外から学生が来てゴスペルタウンに滞在しています。講義は、日本語と英語のバイリンガルで進められ、一緒に講義を受け、奉仕をし、また休日には、一緒に買い物に出かけたり、食事を作ってくれたり、英語も交えつつお互いの文化を学びながら、グローバルな日々を過ごしています。

毎日デボーションがあり、定められた聖書箇所といくつかの質問を通して、聖書全体から語られる神による派遣・宣教「ミシオ・デイ」に着目しています。授業の始まりにはデボーションで与えられたことをシェアする時間をもたれ、それぞれ同じ箇所からどのように感じたのか話します。他人の発見を通してまた新しい視点を発見することもあり、白熱した時間を過ごすこともあります。

GLIの第1週目は4人の先生をお招きして学びを受けました。1日目と2日目は、メリー・ジョー先生とロバート・アデア先生のお二人を通して「チーム・ビルディング」と「ストレngthス・ファインダー」について、各々の強みをどのように成長させ、またチームとしてどのように用いていくのかを学びました。3日目はジョン・ヒューレット先生による情緒的健康、働きの中で燃え尽きないために、どのようなことに気を配る必要があるのか、そして4日目には、三浦雅範先生から祈りのミニストリーとして、傾聴することや、自分のメッセージのタイプなどを実践を踏まえながら学ばせていただきました。

それぞれの授業を通してたくさんの発見があり、充実した時間を持つことができました。特に心に残っている事は、三浦先生を通して語られた傾聴についてです。他人の話をアドバイスや否定など一切入れずに静かに聞く事は難しい事ですね、と私達は授業の終わりごろに感想を述べあっていました。その時にある人が「お年を召された方が何度も同じ話をされる場合はどのように傾聴することができますか」と質問しました。誰もが安易にその状況を想像出来るほどに、頻りに起こる状況でありながら、ほとんどの人は良い対応の方法を知りませんでした。先生は「もちろん、はいはいもう聞きました、とは言わないでくださいね。私はその場合、前回はその話をしてくださいましたよね、何か変わったことはありますか、と次のステップに繋がるような質問をします」と答えてくださいました。その他にもいくつかのパターンで教えていただきましたが、その先生の姿を通して、先生がこれまで通られた長い道のり、経験の量の多さを感じました。実践で培われた知恵や知識をこの授業で分かち合っただけの幸いを深く感じました。

続く2ヶ月のGLIにも期待し、学びを続けて行きたいと思います。



BOOK あらかると

示井信義

キリスト者は生活、人生のすべての領域において、「地の塩」(マタイ 5:13)、「世界の光」(マタイ 5:14)として生きることが求められています。神の国を社会のすべての領域にもたらすためにも、政治とキリスト者、教会の関係についての理解を深めるためにぜひ読んで起きたいのが、リチャード・ボウカム著『聖書と政治』(いのちのことば社)です。

「……イエスが仕えていた神の国は人間生活の全体を含み、またイエスは、政治構造や政策によって影響を受ける人々と愛において一体であるがゆえに、その宣教は生活の他の側面とともに政治的側面に影響を与えた……したがってイエスの生涯、死、復活は、政治だけに限定できないが、政治的側面を持つのである」



6.20 痛んだ人へのケア



6.21 アルファ



6.22 伝道実践 @ 石巻



6.23 教会と宣教



6月20日からGLI 第2週目のクラスが始まりました。2週目の1日目となる20日は、ジョン・ヒューレット先生の「傷んだ人へのケア」について、東日本大震災後、実際に支援活動を行ったヒューレット先生ご自身の体験を基に、心に傷を負った人への支援、傾聴の大切さ、その方法を学びました。「傾聴」の実践として行った2人1組のロールプレイングでは、話すよりも、聴くことの方が努力とエネルギーが必要だということに気付かされました。特に心に傷を負った人に対しての傾聴は、しっかりと心が開かれて信頼を得てからでないと、なかなか話をしてもらおう事は難しいと思います。だからこそ、聖霊様によって聴く側と話す側が繋がりを持つことができるような、祈り心をもって傾聴することが必要だと感じました。このような姿勢は、傷んだ人へのケアだけでなく、あらゆるケースで求められるものであり、健全な教会を建て上げていく為にも必要だと強く感じ、これからの信仰生活の歩みにとても有益な時間となりました。

21日は、永井学院長による、「アルファ」についての学びでした。アルファとは、食事、トーク、ディスカッションの3つの要素を取り入れ、オープンで友だち同士のような環境の中で、クリスチャン信仰を伝える働きで、世界169カ国で112以上の言語に訳されて用いられているそうです。また刑務所でも用いられ、再犯率の抑制にも効果を発揮しているそうで、日本では熊本刑務所でコースを通して、受刑者の何人かの方が受洗されたとのこと。私自身アルファの学びに触れるのは初めてで、今回はアウトラインだけの話だったのですが、このような働きがあることを、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思わせる学びの時でした。

22日は、教室を出て石巻での伝道実践。GLIメンバーの他、香港から前日に到着したばかりの同福堂(トンフック)教会のラム牧師とユース賛美チームの総勢30名ほどの大所帯メンバーで「石巻福音自由教会」を訪問させて頂き、地域の復興住宅や仮設住宅などに住む方々と触れ合うため、月一回程度行われている「サフランの会」に参加しました。ほとんどの方が60歳以上のご高齢の方ですが、香港のユース賛美チームの特別賛美や証しの時間、「上を向いて歩こう」や「アメイジンググレイス」を一緒に歌う時間、そしてラム牧師のメッセージもあり、また、香港チーム手作りの香港風カレーやチキンなども頂き、世代と国籍を超えた、恵みに溢れた交流の時となりました。この地域は、ご高齢の方が多く、こういった交わりを通して少しずつ信頼関係を築き、そのご家族の方々にも救われる方が起こされる様にと、切に祈り求め伝道されている様ですが、実際のところ日曜日の礼拝に来られるのは4~5名で、まだ救われる方は起こされていないとの事です。しかし、「神にとって不可能なことは一つもありません」と告白しながら、厳しい状況の中でも希望を持って伝道されているとの事で、救われる方が起こされる事を共に祈りました。

そして23日は、香港の同福堂(トンフック)教会のラム牧師による、「教会と宣教」についての講義でした。同福堂教会の成長の歩みなどを交えながら、大宣教命令について、香港チームとGLIチームとでディスカッションし、共に深く受け取る時間を持ちました。大宣教命令は、神の働きであり、聖霊によって前進して行く事、余力のある教会だけが行うのではなく、すべての教会、クリスチャンに与えられている使命であることを改めて受け取る時となりました。香港チーム、GLIチームとの国境を超えた、主にある交わりの時は、海外宣教の大切さをリアルに感じる大変貴重な体験になりました。

ゴスペルタウン 6月のトピックス イエス・キリスト福音の群 教職者会 6/5(月)~7(水)

群れの全教区の教職者の方々が一堂に会し、教職者会が執り行われました。集会や「燃え尽き」に関するセミナーなど、祝福と恵みに満ちた素晴らしい時間が持たれました。また、普段なかなかお会いできない先生方との良い交わりと学びの時となりました。

